

令和 7 年度 半田商工会議所事業報告

I. 総括概要

令和 7 年度のわが国経済は、賃上げと物価上昇の好循環が定着しつつあり、実質 GDP 成長率が 1.2%程度、名目 GDP 成長率が 2.7%程度、消費者物価上昇率が 2.0%程度と見込まれる安定成長へ移行しました。一方、地域の中小企業・小規模事業者が直面する最大の課題は、構造的な人手不足とそれに伴う賃上げ圧力であり、引き続き極めて厳しい経営環境に置かれています。原材料費や労務費の上昇を適切に価格転嫁できるかが、企業の存続を左右する正念場ともなり、また「金利のある世界」への移行やコロナ関連融資（実質無利子・無担保）の返済本格化により、資金繰りへの影響も懸念されます。

当所は令和 7 年度、松石会頭 1 期目の任期最終年度を迎えました。令和 4 年 11 月の就任以降、新型コロナウイルス感染症の五類感染症への移行と経済活動の再始動、刻々と変化する海外情勢に大きく影響を受ける国内経済、DX・AI によるビジネスの変革など、持続的な地域経済の発展と中小企業・小規模事業者の成長に向け新たなフェーズへと入り、経営者は激しい環境変化に対応し企業を存続させるため、経営者自らが既存の価値観や行動様式を捨て、意識と能力をアップデートする自己変革が求められています。

令和 7 年 11 月を始期とする松石会頭 2 期目では、基本施策として、「人材と雇用の循環を支える」「中小企業・商業の再生と地域ブランドの確立」「地域内消費の循環と外部流入の促進」「小規模事業者の事業継続支援」「交通・都市基盤の整備と未来構想」を掲げるとともに、新たに小栗宏次副会頭を迎え、5 常設委員会への再編、「未来ビジョン研究チーム」の新規設置等体制を整備し、地域経済の好循環を創出する「共創と循環のまちづくり」を目指します。

基本施策の一つである「人材と雇用の循環を支える」では、知多地域の商工会議所・商工会と連携し企業の採用支援事業として確立していた知多地域学生就職情報センター「るびあん」を全面リニューアルし令和 8 年 1 月、大手求人サイトにはない地元企業の詳細な情報や社風を発信するウェブメディア「チタジョブ」としてサービスを開始しました。引き続き、地域の多様な求人・求職ニーズの変化を捉えていくとともに、市内各高校・地域内大学等との関係づくりを進め、合わせて高齢者・外国籍市民・海外人材等人材と雇用、多文化共生を取り巻く多様な変化に関係機関との連携を強化してまいります。

流通部会主催の「HANDA NOBEL」は、長く継続開催してきた「知って得するゼミナール」を見直し、「事業者の新しいチャレンジをかなえる」をコンセプトに立ち上げたマーケット事業で、令和 8 年 2 月、半田赤レンガ建物において開催しました。近代より起業家精神溢れた先人によって発展した半田が有する潜在力を地域内消費と外部流入を高める魅力へと転換し、事業の継続化を図り商業分野の活性化に繋げてまいります。

中心市街地活性化は、令和 7 年 4 月を始期とする「半田市中心市街地活性化基本計画」が実施段階となり、当所は 2 年目を迎えた半田市中心市街地活性化協議会の枠組みを活かし、知多半田・半田駅前・半田運河の各部会活動がエリア毎の課題解決に向け取り組みに着手しました。協議会と一般社団法人公民連携事業機構とのパートナーシップでは、半田市中心市街地における将来的な事業展開を志向する事業者を対象とした実践的な育成プログラムを実施。エリア価値を高める基盤づくりに取り組むとともに、行政と民間が連携・協働する半田市中心市街地活性化の理念を推進してまいります。

社会・経済環境が急速に変化する中で、地域経済を支える中小企業・小規模事業者を取り巻く環境も大きく様変わりしています。事業者が直面する課題は複雑化・多様化しており、こうした状況下、本年で 133 年の歴史を刻む半田商工会議所は今後より一層、会員企業にとって真に役立つ存在としての機能強化と進化が求められます。「未来ビジョン研究チーム」は、半田商工会議所が将来にわたり持続的に発展し、地域経済の成長と活力の創出に貢献していくことを目指し、真に役立つ組織への改革等使命を担い、地域の支援プラットフォームとしての商工会議所像を確立してまいります。